

五月 皐月、榛南地区は 茶摘みから 田植へと 大忙しです。

“榛南の医療情勢”は危惧すべき状況、先月 皆さんには 昨年年末 平成23年11月28日 臨時総会での答弁 その後の状況【康寿診報167号 P1】に於いて 報告しました。

下記の は 私の“師” そして“友”とする方々が 私 加藤寿夫の現状を察し これを表現したもの、これを 書面で 榛原医師会 高木平会長へ提示したものであります。

「形無く 実質的審議を成さぬ “裁定委員会”を語り ここに責任転換、 “暖簾に腕押し状態”をつくり 『“無言・物言わぬ”も 処している形だ』と豪語」する 貴方 高木平氏。 「貴方は何者 己の胸に手を当て考えて下さい」と“感”しました。

榛原医師会 高木平会長への書面[NO.53-2] 平成24年2月24日(金)より抜粋

本来 医師会執行部 特に会長の仕事は 「“事”を伝える姿勢」を示し これを怠らず、 医師団には無論 地域住民に 行政等の「“外の機関”」にアクセスする姿勢」を知っていただいた上、 医師会の立ち位置で 相対すべき“事”です。

榛原医師会 高木平会長への書面[NO.53-3] 平成24年2月28日(火)より抜粋

榛原医師会 裁定委員会から 4月3日付け 「本件申請を棄却する。」との一枚の用紙 届きましたので、平成24年4月19日 “通知書”【裏面参照】を提示しました。高木平会長には 平成24年5月24日 4度目の 返答を願いました。

今月【康寿診報168号 P2,3】には 静糖協について 報告しました。また 下記 に“組織のトップ”に対する 想いを綴ってみました。

ここ数年 自身の存在する 地方自治・地方医師会等で これらの「“組織”」に 絶対的に必要・必至であると考え 物申す中で “感”する事」だが “組織のトップ” は 特に就任間もない初期は 己自身で足を運び 事を確めながら、自ら 話し合い・交渉事を成す事。 その上で 状況把握 この先目指すものを明確に見出し 組織として一定のステータスを得た上で、 更なる組織体系創りを成し、 組織の代表・トップとしての生じた 公の立ち位置 組織の立場からのスタンス・結束力、これを 崩されない強固な組織創り、これを更なるアクセスから成し、 組織の成すべき事 各論一つひとつを成し遂げ 各論上の総論を語り これを成す事。

Jリーグ ジュビロ磐田 日本代表 前田遼一の得点 若手の活躍で 再び首位を狙える位置、 団栗の背比べの中 “競って負けないジュビロ” 期待します。 また J1コソト -札幌 44歳 ゴン中山雅史背番号 “ピッチでの雄姿”待ってます。 康寿診報 168号 送らせて頂きます。

平成24年5月27日

加藤寿夫 通称: 寿(=寿実寿美)

ホームページが新しくなりました。 <http://www.katojin.jp> ぜひご覧ください。